氏名： 林　廣子（HAYASHI Hiroko）
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 音楽学士（1967　東京芸術大学）／ Bachelor of Music
専門分野： 声楽、特にイタリア声楽作品とベルカント発声法
Vocal;Itarian vocal composition、Vocal technique、Bel canto
E-mail： hayashi.hiroko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

声楽／ベルカント発声法
Vocal music ／ Bel canto,Vocal technique

◆主要業績

総数（3）件

・アルベリ演奏会〈オペラアリア〉企画・構成・指導　上野旧奏楽堂：2008 年 7 月
・グループ・ロブ 復活コンサート第 2 弾　出演　フィリアホール：2008 年 9 月
・アルベリ演奏会〈歌曲〉企画・構成・指導・指揮　上野旧奏楽堂：2009 年 3 月

◆研究内容　／　Research Pursuits

アルベリ演奏会〈オペラアリア〉企画・構成・指導
於：上野旧奏楽堂　2008 年 7 月
主宰しているグループ「アルベリ」の〈オペラアリア演奏会〉の企画、構成、指導を行なった。出演者は 26 名。様々なアリアを演奏した。

アルベリ演奏会〈歌曲〉企画・構成・指導・指揮
於：上野旧奏楽堂　2009 年 3 月
アルベリ歌曲演奏会を企画、構成、指導を行った。出演者は独唱 24 名、お茶大公開講座コーラス受講生メンバーによるコーロ・フィオーリのコーラス 12 名。曲目は様々な歌曲とコーラスで中田喜直作曲、金子みすゞ詩による童話歌曲集「ほしとたんぽぽ」の演奏と指揮を行った。

グループ・ロブ 復活コンサート第 2 弾　出演
於：フィリアホール　2008 年 9 月
演奏曲目：ヴェルディ作曲『リゴレット』より第 3 幕 4 重唱、ベネディクト作曲「カピネラ（みそさざい）」等

Itarian vocal composition,
Vocal technique, Bel canto

◆教育内容　／　Educational Pursuits

学部：
声楽Ⅰ演習 (4 単位)
　声楽基礎、呼吸法、歌唱法の講義及び演奏。前期イタリア歌曲、後期日本歌曲。
声楽Ⅱ (4 単位)
　前期ドイツ歌曲、後期フランス歌曲の研究。
声楽Ⅲ (4 単位)
　ホールにおけるより表現豊かな演奏の研究。
声楽Ⅳ (4 単位)
　宗教曲を含む古典・ロマン派声楽作品及びﾎｰﾙにおける演奏研究。
声楽表現学 (4 単位)
　ベルカント唱法。イタリア歌曲研究。
声楽アンサンブル研究 A,B,C,D(2 単位)
　W.A. モーツァルト「フィガロの結婚」の合唱指導。
教職ピアノ (1 単位)
　1 コマ 2 人の弾き歌い、ピアノソロ曲指導。
教職声楽 (1 単位)
　コールユーブンゲン。独唱曲指導。
卒業演奏研究 (2 単位)
　2 月、徽音堂において行われた卒業演奏会出演者 2 名の演奏曲目 (10 分のプログラム) の作品研究及び演奏指導。
各学年において以上の作品研究及び演奏実技個人指導を毎週行うと共に「演技をともなうオペラアンサンブルのゼミ演奏会」の出演者 10 名の年 2 回の演奏プログラムの個人指導を行った。他にサークル活動として徽音祭に行われる恒例のオペラ、2008 年度は出演者全員の W.A. モーツァルト「フィガロの結婚」全曲声楽指導を行った。

大学院：
前期課程；
声楽演奏学演習 (4 単位)
　イタリアのベルカントによるオペラアリアを中心とした声楽楽曲について、その演奏表現を音楽的側面と身体的側面をも考察しながら実践的研究指導を行った。
修了演奏 (8 単位)
　2 月、徽音堂にて開催の修了演奏会出演者 3 名の演奏曲目 (30 分のプログラム) の作品研究、実技指導を行った。
声楽演奏学演習 (4 単位)
　履修者 2 名が徽音堂にて開催したオペラ、モーツァルト作曲「コシ・ファン・トゥッテ」の作品研究、声楽実技指導を行った。
後期課程；
声楽表現論演習 (2 単位)
　在籍者 2 名の論文研究指導及び声楽実技指導を行った。

Vocal Perfomance,
Special Seminar in Vocal Ensemble Perfomance,
Theory and Practice of Vocal Expression
Seminer in Vocal Perfomance,
Methods of Vocal Perfomance

◆研究計画

　喉に負担のかからない、なめらかで自然な呼吸による美しい発声の研究をしている。この発声には横隔膜を意識した支え、喉頭の安定と共鳴腔の広さの保持等が重要な要素になると考えられるが、この事を自ら体感・実践し、音響分析等の検証も行いながら、生徒に会得させる事を課題としている。しかしながら、この発声を総合的に会得する事はたやすい事ではなく、段階的に習得出来る方法をいろいろ模索し、検討を行いながら研究している。

◆メッセージ

　本学、音楽表現のアドミッション・ポリシーに「勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています」と書かれています。真に、総合大学の中に存在する音楽科であるという条件を最大限に活かせる勉学意欲旺盛な学生を望んでいます。又、東京藝術大学音楽学部と単位互換の協定が結ばれているので、その事も役立てていただきたいと思います。
　その上で声楽に関しては、無理のない発声、国際的に通じる発声と歌唱力を身につけていただきたいと願っています。その為に声楽専攻者には 3 年次より日、独、仏、伊とそれぞれのエキスパートの指導者のもとで作品を学べる体制が組まれ、常時、東京芸大や国立音大の大学院在学生あるいは卒業した男声の助演の方達を迎えて、実際の演技を伴うオペラ・アンサンブルの授業も開講され、前期と後期に一度ずつ試演会を行っています。そして 4 年次には演奏専攻者全員で、卒業演奏会を行います。又、毎年秋に開催される学園祭 (徽音祭) において、3 年次生がオーケストラ伴奏による手作りのオペラを上演します。今年は 46 回目の公演で、音楽科の伝統になっています。大学院修了者は 30 分のプログラムの修了演奏会の他にピアノ伴奏によるオペラ公演も行っています。これらの科目・演目をこなすには、かなりのパワーと努力が必要になります。しかしながらこの体験を通して得るものは、音楽以外の職業に就く場合にも大いに役立つものであると実感しています。